雑学書庫 知識の記録

最も弱い輪が全体を決める、制約理論（Theory of Constraints）

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10118/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

工場の機械を一台ずつ見ていくと、ほとんどは忙しく動いているのに、肝心の完成品はいつも期待したほど出てこないことがあります。ある機械の前には部品が山のように積まれて順番を待ち、その後ろの機械は仕事がなくてたびたび止まってしまいます。全員が懸命に働いているのに、全体のスピードは最も遅い一か所に縛られているのです。この現象を経営の中心に据えて捉えた考え方が「制約理論（Theory of Constraints）」です。 制約理論とは、簡単に言えば「あらゆるシステムの成果は最も弱い一つの輪、すなわち制約によって決まるので、その制約を見つけて集中的に管理しなければならないという経営理論」を意味します。イスラエルの物理学者出身の経営思想家エリヤフ・ゴールドラット（Eliyahu M. Goldratt）が、1984年に小説形式の経営書『ザ・ゴール（The Goal）』を通じて広く知らしめました。 本記事では、制約理論とは何か、なぜ一か所に集中すべきなのかから、制約に対処する5つのステップ、生産現場で使われるドラム・バッファー・ロープ方式、そしてこの理論が残した教訓と限界まで、順に見ていきます。 最も弱い輪が全体を決める、制約理論の原理と活用 制約理論とは何か 制約理論は「鎖の強さは最も弱い輪の強さを超えられない」という古い言葉から出発しています。 （1）すべてのシステムには制約がある会社であれ